

八木鉄男名誉教授略年譜および主要著作目録

略年譜

- 一九二四年二月二日 京都市に生まれる
- 一九四一年三月 京都市立第二商業学校卒業
- 一九四二年四月 同志社専門学校法律経済部入学
- 一九四四年九月 同 卒業
- 一九四四年一〇月 同志社大学法文学部法経学科入学
- 一九四六年四月 同志社大学法経学部法律学科編入
- 一九四七年九月 同 卒業
- 一九四七年一〇月 同志社大学大学院(旧制)入学(一九五二年三月まで在学)
- 一九五二年四月 津市立三重短期大学助教授
- 一九五五年八月 津市立三重短期大学退職
- 一九五五年九月 同志社大学法学部助教授
- 一九五八年一〇月 同志社大学法学部教授
- 一九六二年四月 同志社大学大学院法学研究科修士課程教授
- 一九六五年四月 日本法哲学会理事(一九八九年一月まで)
- 一九六七年六月 海外出張(ドイツ、フランス、イギリス 八月帰国)
- 一九六九年四月 同志社大学人文科学研究所長(一九七〇年四月まで)
- 一九七一年四月 同志社大学法学部長(一九七二年三月まで)

一九七二年六月 在外研究(イギリス 八月帰国)

一九七五年八月 法哲学・社会哲学国際学会連合(IVR)セントルイス世界大会に出席

一九七六年四月 同志社大学院法学研究科博士課程教授

一九九四年三月 同志社大学を定年退職

一九九四年四月 同志社大学名誉教授

主要著作目録

著 書

法学講義案

〔ミネルヴァ書房〕

(一九五六年)

分析法学の潮流

〔ミネルヴァ書房〕

(一九六二年)

法哲学史

〔世界思想社〕

(一九六八年)

分析法学の研究

〔成文堂〕

(一九七七年)

分析法学と現代

〔成文堂〕

(一九八九年)

共 著

法哲学入門 (矢崎光圀と共著)

〔青林書院新社〕

(一九七八年)

編 著

現代の法哲学理論

〔世界思想社〕

(一九七一年)

法学概論

〔青林書院新社〕

(一九七五年)

共 編

教材法学

〔ミネルヴァ書房〕

(一九五八年)

近代法思想の展開 (矢崎光圀と共編)

〔恒藤武二先生還暦記念
有斐閣〕

(一九八一年)

主要著作目録

同志社法学 四六卷三・四号 三八一 (八〇三)

主要著作目録

同志社法学 四六卷三・四号 三八二（八〇四）

法をめぐる人と思想（深田三徳と共編）

〔恒藤武二先生古稀記念
ミネルヴァ書房〕（一九九一年）

論 文

一九五一年

新カント学派、特にラスク及びケルゼンと自然法論（一）（二）完

（同志社法学八号、九号）

法哲学における相对主義について

（同志社法学一一号）

一九五三年

抵抗の理論としての純粹法学

（藤井新一先生還暦記念『法政の諸問題』 有斐閣）

労働法解釈学の意義と限界

（三重法経一号）

純粹法学と法社会学

（同志社法学一七号）

一九五四年

法哲学の現代的課題に関する問題の提起

（三重法経二号）

基本的人権

（田畑忍編『必携日本国憲法』 福音館）

一九五五年

法実証主義批判―序説

（同志社法学二六号）

ラードブルッフと悪法論

（三重法経四号）

一九五六年

ラードブルッフと自然法

（同志社法学三三三号）

一九五七年

分析法学

ブライスの法学方法論

Relativism and Natural Law in Radbruch's Legal Philosophy

一九五八年

イギリス Jurisprudence における法と道徳

一九五九年

オースティンと自然法

The Trend in the Field of Philosophy of Law in Japan

一九六〇年

分析法学派の法解釈理論

「自然法の再生」とイギリス法理学

一九六一年

イギリスにおける「法実証主義的思考にもとづく法哲学」の
成立と発展

一九六二年

法哲学の現代的課題

一九六三年

法実証主義の再検討

法命令説における主権者の問題

個人尊重の法理

(尾高朝雄・峯村光郎・加藤新平編
『法哲学講座』第四卷 有斐閣)

(同志社法学四二号)

(Doshisha Law Review, International Edition No. 2)

(法哲学年報一九五七『法と道徳』 有斐閣)

(高橋貞三先生還暦記念論集 同志社法学五〇号)

(The Japan Annual of Law and Politics No. 7, 日本学術会議)

(恒藤恭先生古稀記念 『法解釈の理論』 有斐閣)

(同志社法学五八号)

(今井仙一先生還暦記念論集 同志社法学六二号)

(綜合法学五卷九号)

(法哲学年報一九六二『法実証主義の再検討』 有斐閣)

(田畑忍先生還暦記念論集 同志社法学七八号)

(二円一億・黒田了一編『憲法問題入門』 有斐閣)

一九六四年

カントの永久平和論

(憲法研究所編『平和思想史』 法律文化社)

一九六六年

悪法論と法実証主義

(同志社法学九八号)

一九六七年

パウンド

(矢崎光圀編『現代法思想の潮流』 法律文化社)

一九六八年

「法の解釈」と法実証主義

(法哲学年報一九六七「法の解釈と運用」 有斐閣)

法哲学の課題

(水飼幸之助先生還暦記念論文集 三重法経)

一九六九年

悪法も法であるか

(法学セミナー一六三号 日本評論社)

古都保存

(ジュリスト増刊『法とはなにか』 有斐閣)

一九七〇年

法実証主義の法思想

(阿南成一編『法思想史講義』(一九八四年『講義法思想史』に再録) 青林書院新社)

法哲学における「道徳」の問題

(井上茂・矢崎光圀編『法哲学講義』 青林書院新社)

イギリス法哲学とラートブルフ法哲学との接触と背離

(同志社法学一一八号)

自然法と実定法

(片岡昇・乾昭三・中山研一編『法学の基礎』 有斐閣)

一九七一年

法哲学における法実証主義的思考に対する一つの理解をめぐって

(峯村光郎教授還暦記念『法哲学と社会法の理論』 有斐閣)

イギリス法哲学とドイツ法哲学

一九七二年

法の改正と法哲学の課題

一九七三年

ブラックストーンとオースティン

先例拘束性の理論

法規範と法体系―法源

一九七四年

恒藤恭

一九七五年

一九世紀のスコットランドにおける法哲学の特色の背景
―序説

一九七六年

法実証主義と価値相対主義

一九七七年

法の目的

一九七九年

恒藤恭の法哲学

法学の意義と種類

一九八一年

〔前出編書〕『現代の法哲学理論』 世界思想社)

〔田畑忍編〕『憲法の改正と法律の改正』(憲法研究所一〇周年記念論文集) 評論社)

〔自然法研究会編〕年報『自然法の研究』六号 法律文化社)

〔井上茂・矢崎光圀編〕『演習法律学概論』 青林書院新社)

〔同右〕

〔法学セミナー増刊〕潮見俊隆・利谷信義編『日本の法学者』(一九七五年に単行本) 日本評論社)

〔同志社法学一三七号〕

〔加藤新平教授退官記念〕『法理学の諸問題』 有斐閣)

〔天野和夫・片岡昇・甲斐道太郎編〕『法学の基礎(入門編)』 青林書院新社)

〔法哲学年報一九七八〕『日本の法哲学1』 有斐閣)

〔田畑忍編〕『法学入門』 法律文化社)

悪法論と法概念論

(井上茂先生還暦記念『現代の法哲学』 有斐閣)

ブラックストーンの法概念と法実証主義

(前出編書『近代法思想の展開』 有斐閣)

一九八二年

悪法論

(井上茂・矢崎光圀・田中成明編『講義法哲学』 青林書院新社)

一九八三年

法と強制

(法哲学年報一九八二『法と強制』 有斐閣)

オースティンの法概念論と最近 (一九六一年以後) のイギリス Jurisprudence (I)

(同志社法学一七八号)

一九八四年

「法哲学」と「法理学」

(ホセ・ヨンパルト・三島淑臣編『法の理論4』 成文堂)

オースティンの法概念論と最近 (一九六一年以後) のイギリス Jurisprudence (I) (未完)

(同志社法学一八三号)

一九八八年

J・オースティンとJ・C・グレイ

(同志社法学二〇〇号記念I 同志社法学二〇〇号)

一九九一年

法は当為か存在か―戦前の日本法哲学界における美濃部達吉と横田喜三郎の論争の回顧―

(ホセ・ヨンパルト・三島淑臣編『法の理論11』 成文堂)

穂積重遠の法と道徳についての見解

(前出編書『法をめぐる人と思想』 ミネルヴァ書房)

一九九二年

二〇世紀初頭 (明治後期) の日本の法哲学

(恒藤武二先生古稀記念論集 同志社法学二二三号)

一九九三年

平和主義憲法と恒藤恭

(田畑忍編『近現代日本の平和思想』 ミネルヴァ書房)

その他

一九五二年

法学入門

(共著、分担執筆 ミネルヴァ書房)

一九五四年

法・法学年表(日本) 明治後期

(恒藤武二と共同執筆、恒藤恭監修 『法・法学年表(日本)』
法学理論篇 日本評論社)

一九五五年

田畑忍『法と政治の実践』を読んで(書評)

(三重法経三号)

一九五六年

末川博編『新訂法学辞典』に法哲学および法学概論関係の項目のいくつかを執筆

(日本評論社)

一九五八年

分析法学

姫岡勤編『入門社会科学小事典』に法学関係の項目のいくつかを執筆

(平凡社世界大百科事典(一九八四年に改訂) 平凡社)

法哲学(一九六四年四月に全面改訂)

(『法学・政治学のでびき』 同志社法学会)

一九六〇年

オースティン『法学限界論』、シュタムラー『法哲学教科書』、
恒藤恭『法の基本問題』、加古祐二郎『理論法学の諸問題』

(世界名著大事典 平凡社)

一九六三年

『自由の法理』(書評)

(法律時報三五卷九号 日本評論社)

一九六三年学界回顧「法哲学」

(法律時報一二月号 日本評論社)

一九六四年

一九六四年学界回顧「法哲学」

(法律時報一二月号 日本評論社)

一九六七年

「法律とはどういうものか」(第二章一節、四節)、「法律学の発展」(第八章)

(瀧川春雄編『法律を学ぶ人のために』 世界思想社)

一九六八年

「自然法と実定法」「法の妥当性と実効性」「法の支配と法治主義」

(法律学基礎五〇講、法学セミナー別冊(一九六九年)天野和夫編『法律学基礎一〇〇講』に収録) 日本評論社)

一九六九年

「分析法学と歴史法学」「経験法学とマルクス主義法学」

(新法律学基礎五〇講、法学セミナー別冊(一九六九年)天野和夫編『法律学基礎一〇〇講』に収録) 日本評論社)

憲法と基本的人権

(けんしゅう八 京都市行政研修所)

一九七一年

一九七一年学界回顧「法哲学」

(法律時報一二月号 日本評論社)

「恒藤恭」——人名——(社会科学大事典「三卷」)
「法実証主義」「分析法学」「法命令説」「法実力説」「法承認説」(社会科学大事典「一六卷」)

(鹿島研究所出版会)

一九七二年

「純粹法学」「目的法学」「新カント派」

(現代法ジャーナル別冊付録『法思想小事典』 勁草書房)

一九七三年

一九七三年学界回顧「法哲学」

(法律時報一二月号 日本評論社)

「恒藤恭」——人名——

(ジャンル・ジャポニカ一巻「政治・社会」事典 小学館)

「法の目的」「法の効力」「分析法学」

一九七四年

オースティン 法理学

一九七四年学界回顧「法哲学」

一九七六年

矢崎光圀『法哲学』（書評）

碧海純一編著『法学における理論と実践』（書評）

法学を学ぶ人のために

一九八〇年

恒藤恭

一九八四年

長尾龍一・田中成明編著『現代法哲学』（書評）

オースティン

一九八八年

長尾龍一・米本昌平編『メタ・バイオエシックス——生命科学と法哲学の対話——』（文献紹介）

一九九〇年

「社会的連帯と道德の強制」（共訳）

（現代法学事典——四 別冊法学セミナー増刊 日本評論社）

（法学セミナー別冊付録『法学者・人と作品』 日本評論社）

（法律時報一二月号 日本評論社）

（法哲学年報一九七五『法と倫理』 有斐閣）

（法学セミナー二六二号 日本評論社）

（恒藤武二編『教材法学概論』 ミネルヴァ書房）

（法学セミナー三〇一号「日本の法学者——人と学問」 日本評論社）

（法哲学年報一九八三『社会契約論』（阿南成一と分担執筆）有斐閣）

（平凡社新版世界大百科事典 平凡社）

（日本医事法学会編 年報『医事法学三』 日本評論社）

（H・L・A・ハート『法学・哲学論集』（共訳） みすず書房）